高蔵寺ニュータウン・ハナモモ桃源郷の会　　会報

ひと・緑・風　明日につなぐ　NO.53

tomorrow

2023 年 12月
代表：糟谷 理恵子
事務局 春日井市石尾台3−11−5
連絡先 090−9899−4499

HP「ハナモモの会」　ブログ「花咲か作戦」

夢追い人の想い知らぬかフジバカマ　…と、花にぼやいても仕方がありませんが

昨年 12 月の株植えからずっと夢見てきた「旅する蝶」アサギマダラの到来は、今年は叶わぬ夢に終わりました。他の蝶はたくさん飛び交っていたので余計に残念です。でもフジバカマは花期が長く（ハナモモ斜面上の野生種は８月初旬～９月末）爽やかな香りも楽しめるので、来年は本数を増やして再度到来を待つことにします。

実は近隣のフジバカマ花壇にはアサギマダラがやってきていました。一般的な園芸種の方が香りが強いので旅の途中でそちらに足、いえ羽が向いたのでしょうか？そんなことから園芸種を植え足そうかという意見もありましたが、今花壇にある準絶滅危惧種由来の野生種と交配したらもったいない！ということで、来年伸びてくる枝を６月ごろ挿し芽をして育てようと考えています。フェンス沿いのフジバカマ花壇を倍の長さに延伸し、準備は整えました。来年６月までは別の花を植えてしばらく楽しもうと思います。

またフジバカマについて会員の長澤さんが新情報をもたらして下さいました。葉っぱから、あの紫式部が愛したというお香ができるというのです。早速会員有志が葉を持ち帰り、乾燥させて細かく砕いたら確かに強くはないものの雅やかな香りが。来年３月 30 日のハナモモまつりでは折り紙で作るフジバカマの文香のワークショップを行おうと、今から一同意気込んでいます。

11 月 10 日、舞い上がるわた毛に鼻をグスグスさせながら葉摘み作業

自宅で乾燥。いい香り！

11 月 20 日、フェンス沿いの花壇を延伸

どんぐりの森さんが購入された堆肥をありがたく使わせて頂いています

12 月 1 日 達人に春の花壇造りを教わりました

パンジー、ビオラ、ノースポール。毎年市から頂いていますが、植え方が少し雑ではないかと感じていました。そこで当会の会員であり毎年自宅でオープンガーデンを開く藪木さんに「基本のキ」を習うことに。「いつも小学生に教えてることだよ」と笑われましたが、やはり今まで行っていなかったり間違えていた点も見つかりました。

まず仮置きして位置を決める

この程度の根鉢ならほぐす必要なし

花壇の土と同じ高さで植え、土をおさえて苗を固定させる

運営委員の眞埜さんが自宅で種から育てたストロベリーキャンドルとカスミソウの幼苗を下さったので同日１本ずつポットに移し替えました。成長したらフェンス沿いに延伸した花壇に移植する予定です。

広がれ！地域の輪

養楽荘さんの餅つき大会に参加

12月5日ハナモモ斜面の中に建つ障がい者支援施設「養楽荘」さんの餅つき大会にご招待いただきました。今年で３回目の参加となります。

当会からは「餅つきには自信がある」「毎年我が家でも作ってるのよ」という“達人”を含め７名が杵を振るい、つきたての餅を丸める作業に没頭しました。施設の居住者さんたちは日頃外部の人と触れ合う機会が少なく、私たちの来訪をとても喜んで下さったそうです。

若いスタッフにこまごま指導も

毎年作っている人はさすがの手さばき

あんこ、きな粉、みたらし、梅おかか

【寄稿】名古屋市　井階弥可さん
（こころのボランティア）

答えの出ない困難をありのまま受け入れる能力、と解釈しました。
人生でこの先にぶつかる試練は１つや２つじゃないはず。
その時がきたらこの言葉を思い出したいです。

『気になるカタカナ言葉①
～ネガティブケイパビリティ～』

この言葉を日本で紹介したのは精神科医・小説家の帚木蓬生で、彼は「答えの出ない事態にたえる能力。急がず焦らず耐えていく力」と表現しています。

人間の脳は「わかろう」とする性質があるらしく、また私たちは子どもの頃から「答えを出す、しかも正解をできるだけ素早く出せることが良いことで、優秀だ」との価値観で教育されています。また、社会からもそう求められているのではないでしょうか？でも現実の社会や人生は、そんなに簡単に割りきれるものでも答えが出るものでもありません。ましてや何が正解かなんて永遠にわからないことかも…です。そんな現実社会や人生を生き抜くために必要な力は、スパッと答えを出す力より、むしろ答えが出ずとも落ち着かない不安な状態を、急がず焦らず耐えていく力＝ネガティブケイパビリティではないのでしょうか？

この概念を初めて知ったとき、「ムリに急いで答えをだそうとしなくてもいいんだ」とのホッとした気持ちと、「悩み続けること、うまくいかないことをそのままに抱え続けることも立派な能力なんだ！」と、悩み多きその頃の自分を肯定してもらえたような嬉しさとがあったように思います。

Topic

今年も入選！

第33回（2023年）
全国花のまちづくりコンクール
団体部門

一昨年寺島・前代表がこっそり応募して入選を頂いたコンクールに、今年は糟谷が応募いたしました。
23ページに亘る写真入りの書類作りは文言をひねり出すのに苦労しましたが、その甲斐がありました。

編集後記　11月末、安曇野を旅してきました。安曇野は今年２月に亡くなった前代表の寺島靖夫さんの故郷。澄んだ空気、晩秋色の里山、その奥には雪をまとう常念岳。在りし日々を想い出して心が温かく、そして切なくなりました。碌山美術館も絵のままの姿で迎えてくれました。（糟谷）

画・寺島靖夫（トリミング加工してあります）